

平成 26 年度  
長岡市内遺跡発掘調査報告書

2015

新潟県長岡市教育委員会

平成 26 年度  
長岡市内遺跡発掘調査報告書

2015

新潟県長岡市教育委員会

## 例　　言

1. 本書は、長岡市内で計画された開発工事に先立って実施した試掘・確認調査の報告である。これらについては平成26年度国庫・県費補助金の交付を受けた。
2. 調査主体は長岡市教育委員会科学博物館である。
3. 本文の執筆は、新田（1・6）、加藤（2・5）、山賀（3）、鳥居（4）で分担し、編集は新田が行った。図版などの作成は一部で整理作業員の協力を得た。
4. 遺物番号は遺跡ごとの通し番号である。
5. 土層柱状図における□は遺物包含層を示す。
6. 出土遺物や写真及び測量図面などの記録類は長岡市教育委員会が保管している。
7. 現地調査から本書の作成に至るまで多くの方から御協力、御教示を賜った。記して御礼を申し上げる（五十音順・敬称略）。

青葉不動産 佐藤リアルティ株式会社 三島郡北部土地改良区 新潟県教育庁文化行政課

新潟県長岡地域振興局農林振興部農地整備課 東日本高速道路株式会社 有限会社隆成工業

石坂圭介 駒形敏朗 小山和人

## 目　　次

1 平成26年度長岡市内遺跡発掘調査の概要	1
2 湊4期地区試掘調査	3
3 大荒戸地区試掘調査	4
4 馬高遺跡確認調査	6
5 三ノ輪遺跡確認調査	7
6 浦畠遺跡確認調査	8



第1図　長岡市の位置



写真1　調査風景（三ノ輪遺跡）

## 1 平成 26 年度長岡市内遺跡発掘調査の概要

平成 26 年度に長岡市教育委員会が実施した遺跡の試掘・確認調査は 6 件である(平成 27 年 1 月 23 日現在)。このほか、諸開発に伴う工事立会いを 16 件実施している。平成 17 年以降に実施された試掘・確認調査件数は、平成 20 年度をピークとして減少傾向にあったが平成 24 年度は増加に転じ、その後は横ばい傾向が続いている。その一方、前年比 2 倍以上の立会調査件数が今年度の特徴と言えよう。

本年度の試掘・確認調査の結果について概観したい。本年度実施済の 6 件のうち、遺構や遺物が検出されたのは 3 件である。県営ほ場整備事業(潟 4 期地区)に伴う試掘調査は、宝崎遺跡の遺跡範囲の縁辺部で行ったものである。遺跡範囲内では縄文土器片や須恵器(転用硯)等が出土する一方、遺跡範囲外に設定した調査トレンチでは遺構・遺物ともに検出されず、周知の遺跡範囲が追認される結果となった。調査地点において工事深度は遺物包含層に達していないものの、施工時に立会調査を実施した。この立会調査でも工事深度が包含層に到達しないことを確認している。三ノ輪遺跡確認調査は個人住宅新築工事に伴うものである。三ノ輪遺跡では平成 2 年の確認調査で弥生時代中期前半の再葬墓を検出しているが、今回の調査では遺構・遺物を確認できず、本調査の実施は不要と判断した。墓園整備事業に伴う浦畠遺跡の確認調査では、中世の建物跡に関連すると推測される土坑を多数検出した。その後の協議によって事業計画が変更され、遺跡は現状保存されることになった。このほか、市街地再開発事業に伴う長岡城の確認調査では、堀跡および近世陶磁器を検出した。これについては 12 月に本調査を実施し、記録保存している。

第 1 表 平成 26 年度長岡市内遺跡調査一覧(本書掲載の調査はゴシック体で示した)

地域	地区	調査原因	結果など
寺泊	潟4期地区	県営ほ場整備事業	試掘 遺構なし / 縄文土器・須恵器・砥石
	宝崎遺跡	県営ほ場整備事業	立会 遺構・遺物なし
	幕島遺跡	県営ほ場整備事業	立会 遺構・遺物なし
	幕島遺跡近接地	県営ほ場整備事業	立会 遺構・遺物なし
与板	本与板所跡	墓移設	立会 遺構・遺物なし
長岡	上条遺跡	土地区画整理事業	本調査 平安時代の柱穴 / 須恵器・土師器
	三ノ輪遺跡	個人住宅建設	確認 遺構・遺物なし
	大荒戸地区	スマート IC 建設事業	試掘 遺物・遺構なし
	大沼城跡	個人住宅建設	立会 遺構・遺物なし
	馬高遺跡	事務所・倉庫建設	確認 遺構・遺物なし
	大沼城跡近接地	個人住宅解体	立会 遺構・遺物なし
	石ノ下遺跡	宅地造成工事	立会 遺構・遺物なし
	長岡城跡	市街地再開発	確認・本調査 江戸時代の堀跡／近世陶磁器
	石ノ下遺跡	個人住宅建設(2 件)	立会 遺構・遺物なし
	藏王堂城跡	陥没修繕・雨水排水路整備	立会 遺構・遺物なし
	岩瀬遺跡	県営ほ場整備事業	立会 遺構なし / 土師器・青磁
	杉本遺跡	県営ほ場整備事業	立会 時期不明の土坑・柱穴 / 土師器
越路	浦畠遺跡	墓園整備事業	確認 土坑 / 磨石
小国	岩田原遺跡	県営ほ場整備事業	本調査 土坑・溝 / 弥生土器・須恵器・土師器等
	岩田原遺跡近接地	県営ほ場整備事業	立会 土坑 / 須恵器・土師器
	阿部田遺跡	県営ほ場整備事業	立会 遺構・遺物なし
	阿部田遺跡近接地	県営ほ場整備事業	立会 遺構なし / 珠洲焼→鍛冶田遺跡を発見



第2図 平成26年度調査位置図 (1/250,000)

## 2 潟4期地区試掘調査

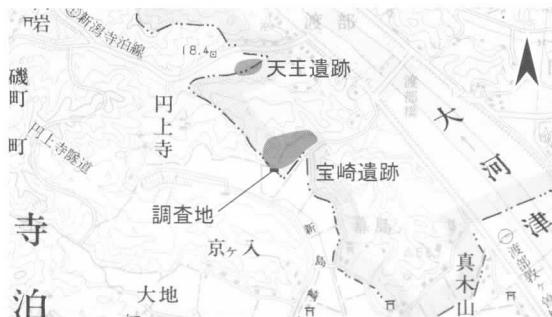
調査地	長岡市寺泊当新田地内	調査面積	8.0m <sup>2</sup> (対象面積 187,272m <sup>2</sup> )
調査期間	平成 26 年 6 月 30 日	調査担当	加藤由美子

**調査に至る経緯** 平成 19 年秋、長岡市教育委員会は県営経営体育成基盤整備事業潟 4 期地区（事業者：新潟県長岡地域振興局）に伴う埋蔵文化財の試掘確認調査を行った。その後、平成 25 年度に工事設計に変更が生じ、周知の埋蔵文化財包蔵地である宝崎遺跡（長岡市No.1294）周辺にパイプラインが敷設されることになったため、遺跡の広がりを確認する目的で改めて試掘調査を実施した。

**調査地の概要** 日本海に沿って伸びる東頸城丘陵の内陸側に位置する。周辺には大正時代まで円上寺潟という大きな潟湖が存在し、潟の汀線上に縄文時代後・晩期の遺跡が点在する。宝崎遺跡は潟に面した標高 15 ~ 20 m の丘陵裾部に立地する縄文時代及び古代の遺跡である。遺跡の範囲は長岡・燕両市にまたがっており、燕市が平成 26 年度に実施した発掘調査で縄文時代中・後期の遺物包含層が確認されている。

**調査の結果** パイプライン工事予定箇所に 1 × 2 m のトレンチを 4 箇所設定した。4 T は周知の遺跡の範囲内に設定した。掘削はバックホウと人力で行い、調査後に埋め戻しを行った。基本層序は I 層：茶褐色粘質土、II 層：暗灰砂質土、III 層：暗灰粘質土、IV 層：茶褐色腐食土、V 層：茶褐色砂質土（古代の遺物包含層）、VI 層：茶褐色砂質土、VII 層：黒褐色粘質土（縄文時代の遺物包含層）である。調査の結果、4 T の V 層から 9 世紀半ばの須恵器の転用硯（3）と砥石、VI 層から縄文土器（1・2）が出土した。1 ~ 3 T は深さ 2 m まで土層を観察したが、丘陵から田面に向かって地山が急激に沈み込んでいるため、4 T で確認された遺物包含層は確認できなかった。いずれのトレンチでも遺構は検出していない。

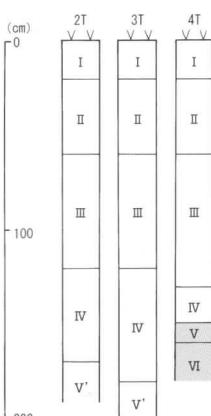
**まとめ** パイプライン工事の予定掘削深度は 1.1 m で、遺物包含層には届かない。ただし、丘陵裾部で地山が急激に上がる可能性も残されているため、宝崎遺跡の範囲に限り工事立会が必要と判断した。その後、県教委の指示の元、7 月 31 日・8 月 1 日に工事立会を行った。遺構・遺物は確認できなかった。



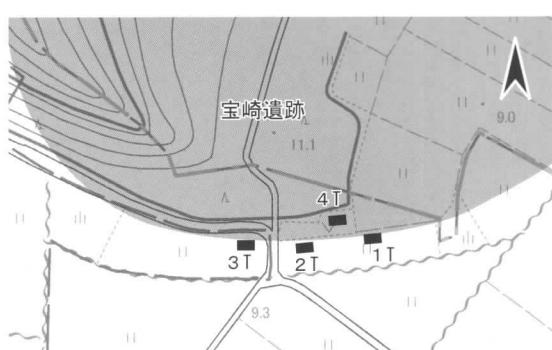
第3図 調査位置図 (1/50,000)



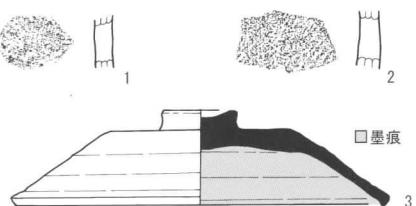
写真2 4 T 完掘状況



第5図 土層図 (1/40)



第4図 トレンチ位置図 (1/2,500)



第6図 出土遺物 (1/3)

### 3 大荒戸地区試掘調査

調査地	長岡市大荒戸町地内	調査面積	706.2m <sup>2</sup> (対象面積 33,000m <sup>2</sup> )
調査期間	平成 26 年 11 月 10 日～20 日	調査担当	山賀和也

**調査に至る経緯** 大荒戸地区において長岡北スマートインターチェンジ（仮称）建設事業が計画され、平成 22 年 1 月に埋蔵文化財の取り扱いについて長岡市土木政策調整課と協議を行った。事業計画地には、周知の埋蔵文化財は存在しないが、大規模な開発になることから試掘調査を実施し、遺跡の有無を確認する必要がある旨を伝えた。その後、事業は施工担当課である道路建設課（事業者）に移管されたため、道路建設課と調査位置や時期などの詳細な協議を重ね、調査は平成 26 年秋に実施することとした。

また、建設事業は、東日本高速道路株式会社と長岡市が実施するため、遺跡発掘調査についても東日本高速道路株式会社の事業地部分は新潟県教育委員会が、長岡市の事業地部分は長岡市教育委員会が担当した。

**調査地の概要** 調査地は信濃川左岸の沖積地に位置しており、標高は約 18 m である。現在は水田となっており、調査地の南西部に道満川が横切っている。周辺には、調査地の西方約 4 km とやや離れてはいるが縄文時代後期の根立遺跡（長岡市 No.455）が位置している。根立遺跡は、標高 16.3 m 付近で遺物を確認できることから、今回調査地の掘削深度の目安とした。

**調査の結果** 事業計画地に 94 箇所設定し、バックホウで慎重に掘削を行った。掘削は、標高 15 m 付近まで行い、調査地全体に青灰色粘土～砂が厚く堆積していることを確認した。事業者の調査では標高 14 m 付近で砂利層に到達することである。調査の結果、いずれのトレーンチも遺物、遺構は発見されなかつたため、事業計画地には遺跡が存在しないと判断し、工事に支障がない旨を事業者に伝えた。



第 7 図 調査位置図 (1/50,000)



写真 3 調査地近景（南から）

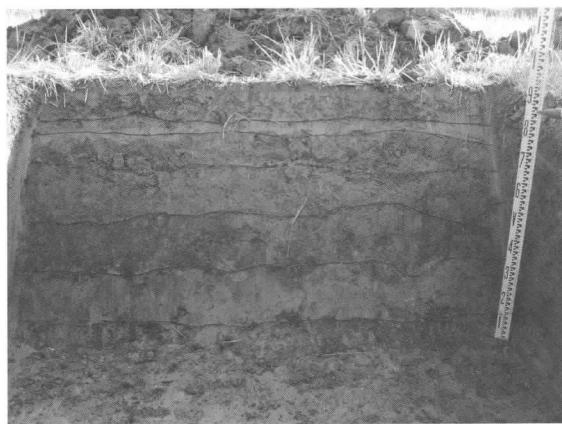
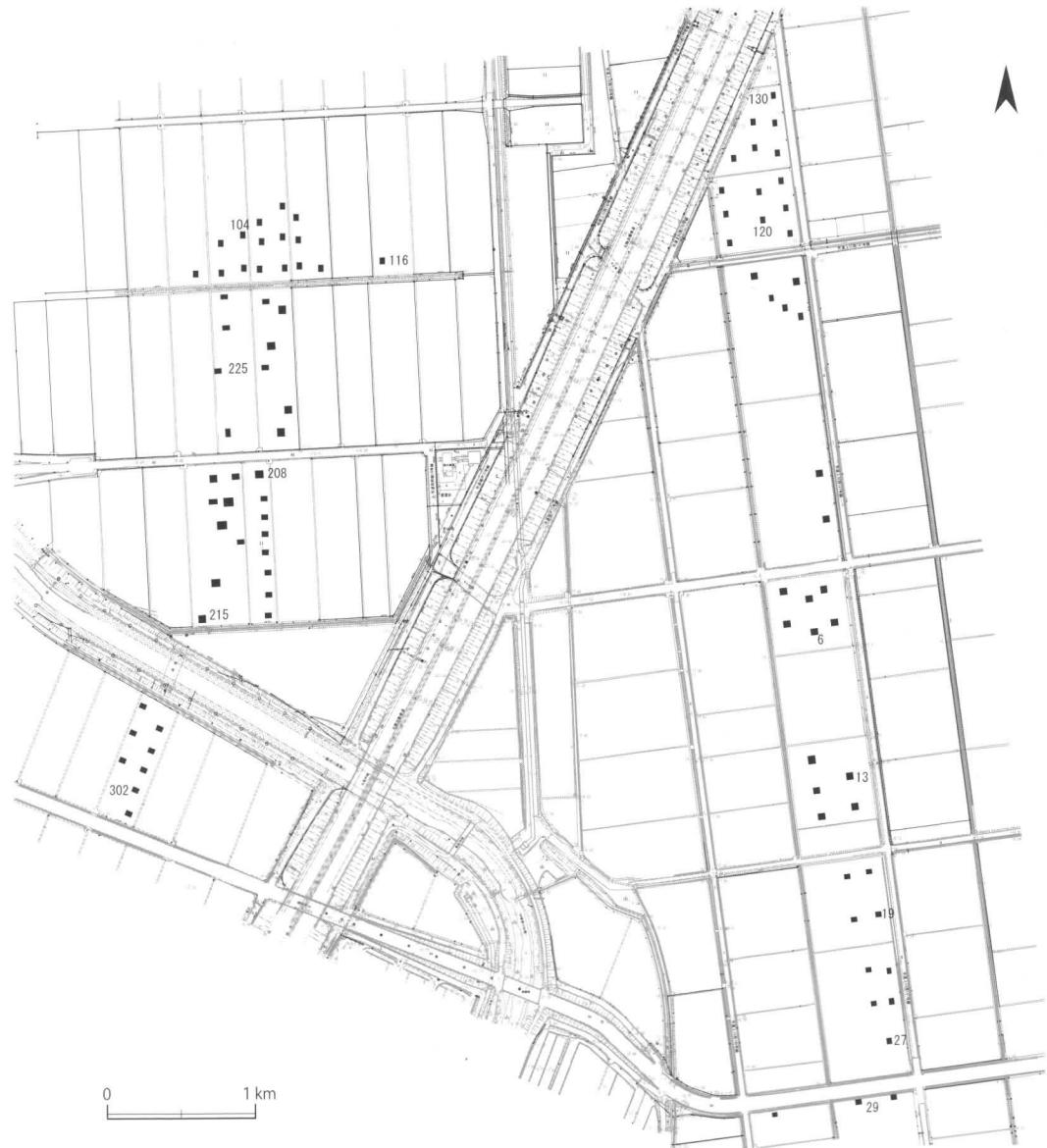
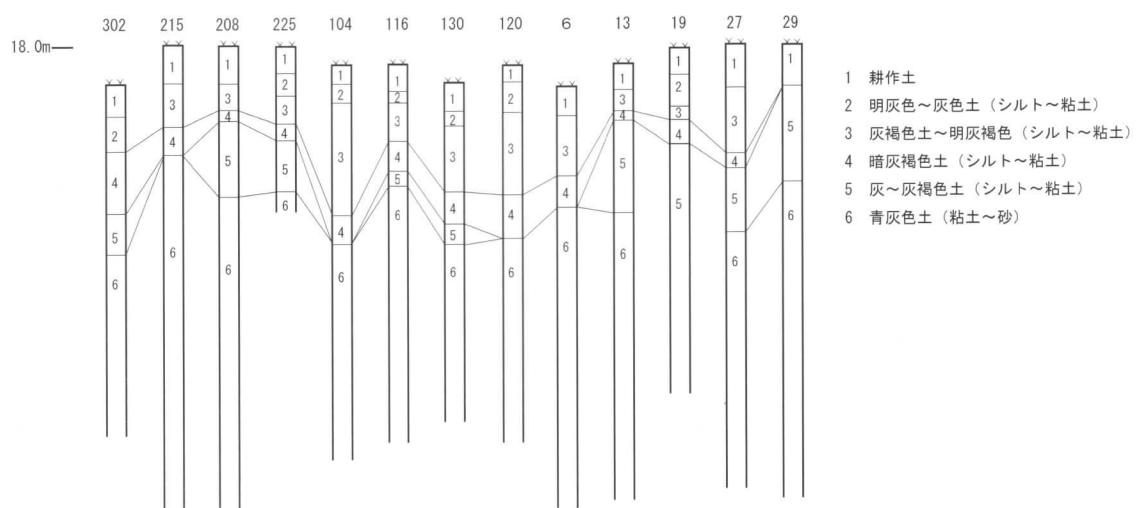


写真 4 116 T 土層断面（北から）



第8図 トレンチ配置図 (1/5,000)



第9図 土層柱状図 (1/40)

#### 4 馬高遺跡確認調査

調査地 長岡市関原南5丁目  
調査期間 平成26年4月15日

調査面積 24.0m<sup>2</sup> (対象面積 632.5m<sup>2</sup>)  
調査担当 鳥居美栄

**調査に至る経緯** 平成26年4月11日、事務所・倉庫の計画地における埋蔵文化財の有無について、事業者から長岡市教育委員会に照会があった。計画地が馬高遺跡（長岡市No.18）の範囲に含まれているため、確認調査を実施し、その結果に基づいて遺跡の保護方法について改めて協議を行うこととなった。確認調査費用については事業者と長岡市教育委員会の双方で負担することとなった。

**調査地の概要** 馬高遺跡は、信濃川左岸段丘上に立地する縄文時代中期の遺跡である。火炎土器様式の土器、石器、土製品、石製品などを大量に出土しており、主要な遺物は重要文化財に指定されている。遺跡は2群の馬蹄形集落が南北に展開した大規模集落で、西側に隣接する縄文時代後期の集落遺跡である三十稻場遺跡（長岡市No.33）とともに「馬高・三十稻場遺跡」として国史跡に指定されている。調査地は史跡指定範囲外であるが、馬高遺跡の北東隅に位置している。標高は約62m。調査地の北側には国道8号線が通り、東側の市道西幹線77号線が近年整備されたこともあり、周辺に住宅や店舗が増えてきている。

**調査結果** 調査トレンチ（2×4m）を3箇所設定し、バックホウで掘削を行った。1・3Tにおいて確認された黒褐色土層は、平成10年に実施された史跡見学者用駐車場整備に伴う調査〔長岡市教委 1999〕における遺物包含層に相当すると見られるが、縄文時代の遺物は出土しなかった。遺構については3Tにおいて現代のゴミ穴を検出したのみで、縄文時代のものと見られる落込みは確認されなかった。以上の結果から、本調査は必要ないと判断し、工事実施は支障ないが慎重に工事を行うよう事業者に伝えた。



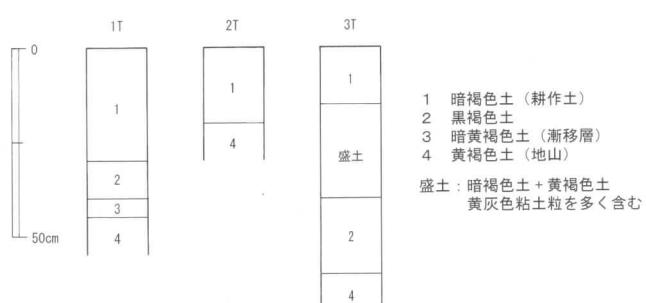
第10図 遺跡位置図 (1/20,000)



第11図 トレンチ配置図 (1/2,500)



写真5 1T完掘状況 (北から)



第12図 土層柱状図 (1/20)

## 5 三ノ輪遺跡確認調査

調査地 長岡市五反田 1083 番 調査面積 60.0m<sup>2</sup> (対象面積 60m<sup>2</sup>)  
調査期間 平成 26 年 7 月 2 日 調査担当 加藤由美子

**調査に至る経緯** 平成 26 年 4 月 3 日、個人住宅新築工事に係る埋蔵文化財の取扱いについて照会があつた。照会地は三ノ輪遺跡（長岡市No.43）の範囲に含まれるため、工事着手に先立ち、遺跡の広がりと埋蔵状況の確認のための確認調査を行った。

**調査地の概要** 三ノ輪遺跡は信濃川左岸の関原丘陵の北西側縁辺部に位置し標高 33m、沖積地との比高は 6 m である。地元では縄文時代や石器が出土する遺跡として古くから知られている。遺跡が登録された昭和 48 年当時一帯は平坦な畠地であったが、その後に開発が進み現在は宅地が広がっている。平成 2 年に土地区画整理事業に先立ち長岡市教育委員会が実施した確認調査で、弥生時代中期前半の再葬墓が 1 基確認された。再葬墓は埋甕 4 個から構成され、県内の弥生時代の再葬墓事例の南限となっている。

**調査の結果** 住宅基礎工事部分に 6 × 10 m のトレンチを設定した。掘削はバックホウと人力で行い、調査後に埋め戻しを行った。基本層序は I 層：黒褐粘質土（耕作土・客土）、II 層：明黄褐粘質土（地山）である。平成 2 年の確認調査でも指摘されているとおり、近現代の耕地整理による削平を大きく受けているため遺物包含層は存在しない。現地表面から地山までの深さは調査区南東で 15cm、同北西で 75cm を測り、地山は南東から北西側に大きく傾斜していることがわかる。

調査の結果、遺構・遺物が確認できなかったため、工事に支障がない旨を事業者に伝えた。



第 13 図 調査位置 (1/50,000)



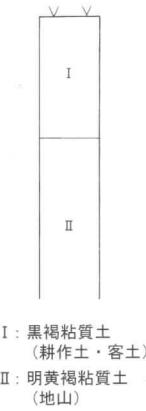
第 14 図 トレンチ位置 (1/2,500)



写真 6 完掘状況



写真 7 土層断面



第 15 図 土層図 (1/10)

## 6 浦畠遺跡確認調査

調査地	長岡市来迎寺甲901番地2 ほか	調査面積	11.6m <sup>2</sup> (対象面積400m <sup>2</sup> )
調査期間	平成26年10月29日	調査担当	新田康則

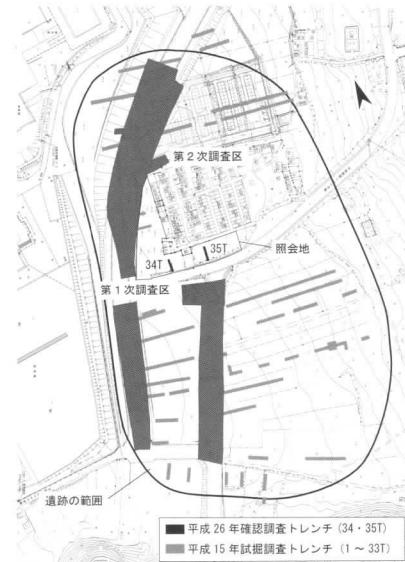
**調査に至る経緯** 平成26年10月23日、長岡市越路支所市民生活課から越路墓園駐車場整備に係る浦畠遺跡（長岡市No.448）の取扱いについて照会があった。平成15年の試掘調査、平成19・22年実施の本発掘調査によって遺跡の概況は把握しているが、さらに確認調査を追加して、事業計画に反映させることとした。

**調査地の概要** 信濃川左岸に形成された越路原Ⅲ段丘上に位置する。浦畠遺跡は中世（13～15世紀）を主体とし、南東の狭い範囲に7世紀末～8世紀前半の集中的な活動痕跡、そして縄文時代と平安時代の希薄な遺物分布が重なり合っている。

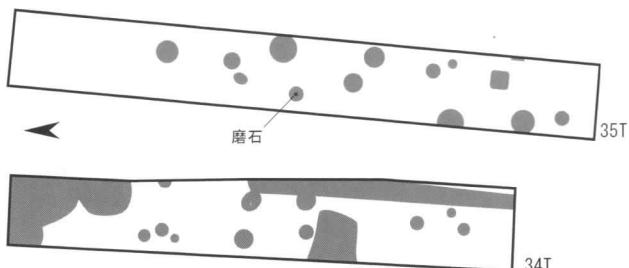
**調査の結果** 2箇所のトレンチ調査を実施した。トレンチ番号は平成15年調査の連番とした。34・35Tとも遺構確認面（黄褐色風化火山灰土層）まで近年の耕作による搅乱で遺物包含層がほぼ消滅しているものの、土坑が比較的密に分布していた（第17図）。これら土坑のうち、35Tの1基からは磨石1点が出土している。

安山岩の扁平礫を利用したもので、図示した面が赤化している（第19図）。縄文時代の所産であろう。

**まとめ** 調査結果に拠って事業者と協議した結果、アスファルト舗装の駐車場から、現況地表に砂利舗装した臨時駐車スペースへと計画が変更され、遺跡は現状保存された。



第16図 調査地位置図 (1/4,000)



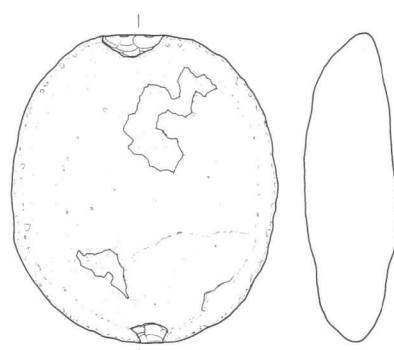
第17図 遺構確認状況図 (1/100)



第18図 土層柱状図 (1/20)



写真8 34T 遺構確認状況 (南から)



第19図 遺物実測図 (1/3)

## 参考文献

寺泊町

1991 『寺泊町史』資料編1 原始・古代・中世 寺泊町

1992 『寺泊町史』通史編上巻 寺泊町

中村孝三郎

1966 『先史時代と長岡の遺跡』 長岡市立科学博物館

長岡市

1992 『長岡市史』資料編1 考古 長岡市

長岡市教育委員会

1991 『長岡市内遺跡群発掘調査報告書 瓜割遺跡・三ノ輪遺跡・六右工門清水遺跡・三貫梨遺跡』 長岡市教育委員会

1999 『史跡『馬高・三十稻場遺跡』隣接地 一環境整備事業に伴う発掘調査』 長岡市教育委員会

2006 『平成17年度長岡市内遺跡発掘調査報告書』 長岡市教育委員会

2007 『平成18年度長岡市内遺跡発掘調査報告書』 長岡市教育委員会

2008 『浦畠遺跡 一市道改良工事に伴う埋蔵文化財発掘調査報告書一』 長岡市教育委員会

2008 『平成19年度長岡市内遺跡発掘調査報告書』 長岡市教育委員会

2009 『平成20年度長岡市内遺跡発掘調査報告書』 長岡市教育委員会

2010 『平成21年度長岡市内遺跡発掘調査報告書』 長岡市教育委員会

2011 『平成22年度長岡市内遺跡発掘調査報告書』 長岡市教育委員会

2011 『浦畠遺跡II 一墓苑建設工事に伴う埋蔵文化財発掘調査報告書一』 長岡市教育委員会

2012 『平成23年度長岡市内遺跡発掘調査報告書』 長岡市教育委員会

2013 『平成24年度長岡市内遺跡発掘調査報告書』 長岡市教育委員会

2014 『平成25年度長岡市内遺跡発掘調査報告書』 長岡市教育委員会

分水町

2004 『分水町史』資料編I 自然・考古・古代・中世 分水町

三島町

1984 『三島町史』上巻

和島村教育委員会

2003 『下ノ西遺跡IV 一県営圃場整備事業（桐島桐原地区）に伴う埋蔵文化財発掘調査報告書一』 和島村教育委員会

## 報告書抄録

ふりがな	へいせいにじゅうろくねんどながおかしないいせきはくつちょうさほうこくしょ						
書名	平成26年度長岡市内遺跡発掘調査報告書						
副書名							
巻次							
シリーズ名							
シリーズ番号							
編著者名	新田康則・加藤由美子・山賀和也・鳥居美栄						
編集機関	長岡市教育委員会						
所在地	〒940-0084 新潟県長岡市幸町2丁目1番1号						
発行年月日	2015年1月23日						
ふりがな 所取遺跡名	ふりがな 所在地	コード 市町村	北緯 遺跡番号	東經	調査期間	調査面積	調査原因
たからさきいせき 宝崎遺跡	にいがたけんがおかしてらどまりとうしんでんちない 新潟県長岡市寺泊当新田地内	152021	1294	376466 1387976	20140630 20140630	8.0m <sup>2</sup>	試掘・確認調査
うまたかいせき 馬高遺跡	にいがたけんがおかしけきはらみなみらちょうめ5000まん1 新潟県長岡市関原南5丁目5000番1	152021	18	374481 1387696	20140415 20140415	24.0m <sup>2</sup>	試掘・確認調査
みのわいせき 三ノ輪遺跡	にいがたけんがおかしごたんだまちあざみのわ 新潟県長岡市五反田町字三ノ輪	152021	43	374571 1387713	20140702 20140702	60.0m <sup>2</sup>	試掘・確認調査
うらはたいせき 浦畠遺跡	にいがたけんがおかしらいこうじこう1328ばんち ほか 新潟県長岡市来迎寺甲1328番地 他	152021	448	373939 1387477	20141029 20141029	11.6m <sup>2</sup>	試掘・確認調査
ふりがな 所取遺跡名	種別	主な時代	主な遺構	主な遺物			特記事項
たからさきいせき 宝崎遺跡	遺物包含地	縄文	なし	縄文土器・須恵器・砥石			なし
うまたかいせき 馬高遺跡	遺物包含地	縄文	なし	なし			なし
みのわいせき 三ノ輪遺跡	遺物包含地	縄文	なし	なし			なし
うらはたいせき 浦畠遺跡	集落跡	縄文・中世	土坑	磨石			なし

## 平成 26 年度 長岡市内遺跡発掘調査報告書

平成 27 (2015) 年 1 月 23 日 印刷

平成 27 (2015) 年 1 月 23 日 発行

発 行 新潟県長岡市教育委員会

印 刷 株式会社第一印刷所